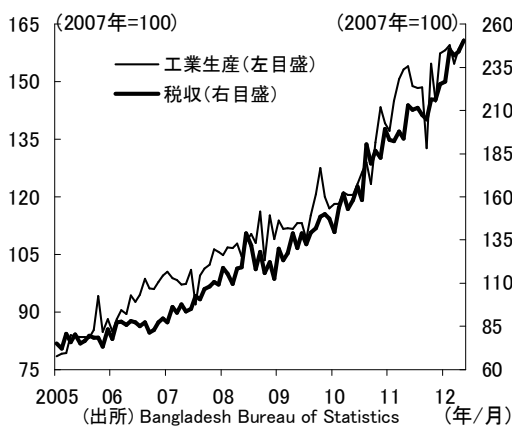




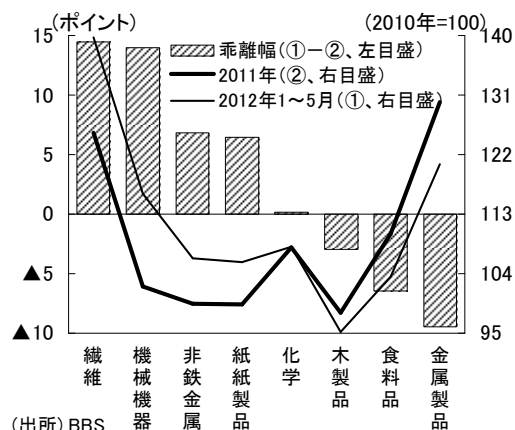
高成長続くバングラデシュ ～ 進展する産業化 ～

- (1) バングラデシュ経済が好調。同国GDPは四半期毎でなく年単位の発表であるなど、経済全体として直近の情勢判断に制約。そこで、名目ながら税収動向をみると、07年春、増収へ転じた後、08年後半や11年後半など一進一退の局面もあったものの、総じて増収持続（図表1）。加えて、近年、増収ペースに拍車。消費者物価前年比上昇率が2桁から本年7月8.0%まで鈍化するなど、物価の騰勢鈍化を加味すれば、本年に入り成長ペースが加速した公算大。
- (2) 一方、工業生産は昨年春をピークに夏以降、驕りが拡がったものの、10月以降再び盛り上がり。主要分野別に生産動向をみると、第一の牽引役は繊維、次いで機械機器（図表2）。金属製品は本年入り後、昨年比では減産に転じたものの、水準では10年対比2割増で、繊維に次ぐ生産拡大。非鉄金属の増産と併せてみれば、裾野産業が広い機械機器の生産増加に伴い金属製造業が成長。なお従来、同国経済を牽引してきた天然ガスをはじめとする鉱業分野では、むしろ驕りが拡がる展開。製造業主導型産業構造への転換が着実に進行。
- (3) 産業化は国内資本に加え、外資参加が原動力。直接投資は05年度以降、年間8億ドル前後での推移から本年度盛り上がりへ（図表3）。本年度の投資額は昨年7月から本年5月までの11ヵ月分ながら10.6億ドルと初めて10億ドル台に乗り、昨年比3億ドルの増加。四半期別には本年1～3月期まで前年比一進一退。盛り上がりは本年4月から。証券投資も本年入り後、盛り上がりへ。
- (4) 産業化の進展や外資参加の背景には、開放政策への転換やインフラ整備の進展、政治的安定性への信頼向上など同国国内要因に加え、賃金上昇をはじめ、多くの新興各国で飛躍的な経済発展に伴うコスト増が本格化するなか、相対的にコスト競争力強い同国経済の魅力増大（図表4）。多くの余剰労働力を抱え魅力の早期減衰の懸念小。引き続き7%前後の高成長持続の公算大。

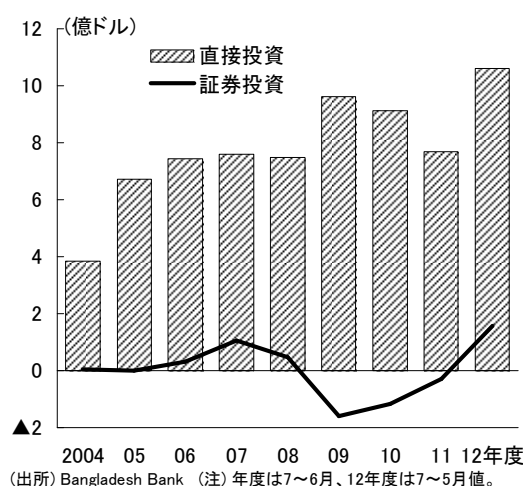
（図表1）バングラデシュの税収と工業生産（季調済）



（図表2）主要業種別工業生産（季調済）



（図表3）直接投資と証券投資



（図表4）アジア主要都市の賃金

